

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月  
基準日 定時株主総会 3月31日  
期末配当金 3月31日  
中間配当金 9月30日(※当事業年度の中間配当の予定はございません)

公告の方法 日本経済新聞に掲載  
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社  
同事務取扱場所 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号  
(お問い合わせ先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
電話 0120-094-777(通話料無料)

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店  
※株式関係のお手続き用紙のご請求は、  
次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。  
電話(通話料無料)  
0120-244-479(本店証券代行部)  
0120-684-479(大阪証券代行部)  
ホームページアドレス <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>



フジプレミアム株式会社

〒671-2216 兵庫県姫路市飾西38-1 TEL.079-266-6161 FAX.079-266-6738



証券コード:4237



フジプレミアムと社会を結ぶ情報誌

vol.13  
2008/3

株主、投資家の皆様へ

株主の皆様には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より、当社グループの事業につきまして格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

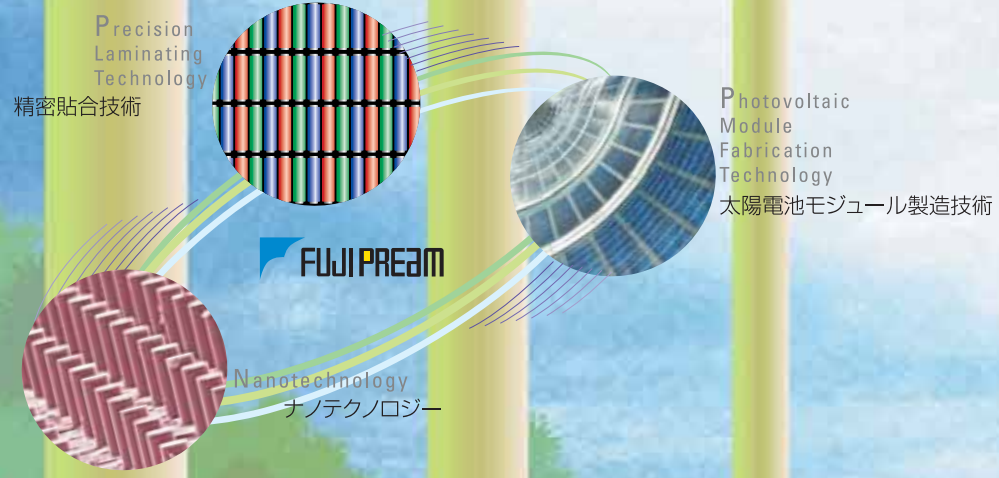
当社グループの主力事業であるフラットパネルディスプレイ(FPD)部門においては、市場の再編成、再構築がドラスティックに繰り返されて、競争が更に激化している中で、技術力と研究開発力を背景に、当社グループは常に優位に立てる体制を整えているため、当事業部門におけるトップの地位を目指せる圏内に存在し続けることができます。

また、近い将来の主力事業となるクリーン・エコエネルギー部門については、多様化するニーズに対応する為、昨年より本格稼働を開始しました当社PV工場を製造拠点とし、建材一体型太陽電池モジュール(BIPV)の製造などオリジナル製品を世界市場にむけて送り出しております。「環境元年」とうたわれる昨今は、特に世界的期待感を目の当たりにしており、国内外においてブランド力を強化し、高い存在感を示していくことが当社に課せられた使命だと、日夜邁進しております。

当社グループは、「ものづくり」を中心とした企業であると同時に、研究開発型企業でもあります。創業以来、磨きをかけてきたものづくりの「技」を新たな分野で活かすには、徹底した研究開発が不可欠です。風雨や猛暑などの厳しい条件の下でも、未来の実りとなる種を地中から探し出し、そこから更により良い実を見つけ育てていくという、根気と粘りこそが、企業の幹を太くし支えます。自然の恵みや戒めには感謝と畏敬の念を忘れず、10年先、20年先に目を向けて企業を育てていく経営を目指してまいります。

株主、投資家の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長  
**松本 實藏**



フジプレアムは、  
3つのコア技術で  
時代を拓きます。

フジプレアムは、研究開発型企業として3つのコア技術を基本に、時代と顧客のニーズに的確に応え、人々の豊かな暮らしに貢献することを目指しています。日々急速な進歩を遂げるディスプレイデバイスの世界、持続可能な社会づくりに寄与するためのエコエネルギー市場、これからの未来を支えるナノテクノロジー市場において、さらなる技術の向上と、新たな技術の取得に努めています。

最先端テクノロジーで、ディスプレイデバイス業界を牽引  
PDP用光学フィルター、ダイレントフィルター、液晶偏光板フィルムの製造・販売

独自の技術で、環境保護とエコエネルギーの普及に貢献  
採光型太陽電池モジュール、太陽光発電関連商品の製造・販売

時代の基幹技術「ナノテクノロジー」を、産学官で共同研究  
放射光による超微細加工技術の研究



Environment-related business of Fujipream

# 特集： フジプレアムの環境ビジネスの取組み



## 太陽光発電システムを核に環境循環型社会に貢献する取組みを進めます。

当社では、精密貼合(てんごう)技術をコアテクノロジーとして、プラズマディスプレイパネルの画像を美しく、安全に見るために欠かせない光学フィルターの製造・販売を主力に様々な方面へと業容を拡大しています。昨今、注目を集めているエコエネルギーである太陽光発電システムにも、当社の精密貼合技術が生かされています。「PRE」Vol.13の特集では、太陽光発電システムを中心とするフジプレアムの環境ビジネスの取組みをご紹介します。

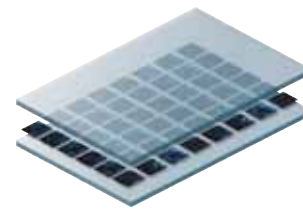


今回の特集では、取締役IR広報部長兼フジサンエナジー(株)代表取締役社長の大川拓志さんにお話を伺います。

2000年(平成12年)に太陽光発電システムの製造・販売に参入されましたが、フジプレアムの太陽電池事業の特徴を教えてください。

付加価値の高い建材一体型太陽電池モジュールを製造しています。

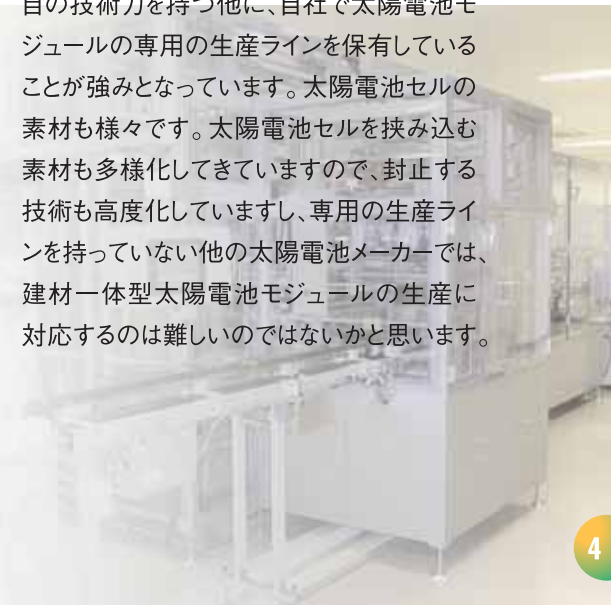
当社が製造している太陽電池モジュールは、独自の太陽電池ラミネート技術によって製造した付加価値の高い建材一体型太陽電池モジュールです。建材一体型太陽電池モジュールは、主に太陽電池セルを強化ガラスで挟み込んだもので、いわば、屋根材や外壁材が太陽電池モジュールそのものになったようなものです。屋根の上に設置するだけの従来のスタンダードモジュールに比べると、建物にデザイン性を持たせることができるようになりました。強化ガラスの代わりに特殊なフィルムを使用することもできますので、これまで不可能だった曲面に取り付けることもできるようになり、幅広い用途に対応することが可能です。最近では官公庁の建物や大型商業施設等、大規模な建物等に太陽光発電を設置するケースが増えています。発電性能の高さに対するニーズに加えて、景観や建築物のデザインと調和する太陽光発電システムへのニーズが非常に高くなっています。



フジプレアムの技術はどのようなところに活用されていますか。

独自技術の精密貼合(てんごう)技術で高い付加価値を生み出しています。

建材一体型太陽電池モジュールに生かされているのが、当社の独自技術「精密貼合(てんごう)技術」です。プラズマテレビ等の光学フィルターの製造に欠かせない技術ですが、異なる素材同士を貼り合わせる技術を活用して、建築物の外壁等に必要のガラスの中に太陽電池セルを自由な配列で封止していきます。大手の太陽電池メーカーで生産されているのは量産型のものが中心です。技術力やコスト面等から、量産化がしにくい建材一体型太陽電池モジュールで当社が競争力を誇っているのは、精密貼合技術という独自の技術力を持つ他に、自社で太陽電池モジュールの専用の生産ラインを保有していることが強みとなっています。太陽電池セルの素材も様々です。太陽電池セルを挟み込む素材も多様化してきていますので、封止する技術も高度化していますし、専用の生産ラインを持っていない他の太陽電池メーカーでは、建材一体型太陽電池モジュールの生産に対応するのは難しいのではないかと思います。





## 国内の太陽光発電の状況を教えてください。

コスト面等から、システムの普及は鈍化傾向となっています。

1994年に、経済産業省による住宅用太陽光発電システムモニター補助制度が始まりました。その後、10年間で住宅用太陽光発電の市場規模は年間約6万件、約1500億円に拡大しました。また、公共・産業用にも広がり、太陽光発電システムの価格は当初からみると半分以上に下がりました。しかし、一般消費者の方々が、家電や日用品のように実際に見て、触って、簡単に購入できる状況ではなく、太陽電池メーカーの代理店の訪問販売等が中心で、施工工事は専門の電機工事業者でなければできません。その結果、施工工事や販売コストがかかってしまうこと等で価格は横ばい状態が続いています。さらに、住宅用太陽光発電の補助制度が、2005年度で打ち切りとなり、国内における普及状況はペースダウンする傾向となっています。

今後、普及を加速させる為には、低コスト化や需要の拡大に向けた導入支援策や仕組み作りが必要だと考えています。



## 今後、どのような事業展開を考えていますか。

環境ビジネスのインテグレーターの役割を担っていきます。

1997年の京都議定書で、先進国全体の二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を中心とした温室効果ガスの削減目標が明確に定められました。最近ではCSR (企業の社会的責任) という意識が広がり、環境に配慮して事業活動を展開していくことが常識となりつつあります。ただ、CO<sub>2</sub>の削減が順調に進んでいるかというと、逆に増えてしまっているという厳しい現状です。自然エネルギーを活用した環境ビジネスはコストが高く、採算が合わない。それが、環境ビジネスが進展しない一因となっています。フジプレアムグループの今後の展開として、新しい環境価値が循環する仕組みづくりに取り組んでいく考えです。フジプレアムはメーカーとして、技術力を生かして太陽電池モジュールを製造し、グループのフジサンエナジーが販売を手掛けています。これまでは、太陽光発電モジュールの販売事業にとどまっていたのですが、今後、フジサンエナジーでは、太陽光発電にとどまらず、水力や風力、地熱発電、バイオマス燃料等、様々な自然エネルギーの幅を広げて、包括的な環境ビジネスを展開して参りたいと考えています。

2008年の7月には、北海道で洞爺湖サミット(主要国首脳会議)が開催されます。そこでもやはり、環境問題が重要な課題として討議されるでしょう。例えば、環境ビジネスのコストの回収を進める有望な方法として、グリーン電力証書等の環境価値取引があります。グリーン電力に限らず、地域の特産物や農産物等で、グリーン電力のような仕組みができれば興味深いのではないのでしょうか。自治体のほかに、これまでエネルギー等に関連のなかった企業等にも声をかけ、当社が中心となって、様々な天然資源を再利用できる循環型社会づくりに貢献したいと考えています。これまでは、環境ビジネスといっても社会貢献やPRの意味合いが強かったのですが、これからは、地球環境を守ることが義務となり責任が伴ってくるでしょう。新エネルギーの中から最適なものを選んで上手く循環させる、環境ビジネスにおけるインテグレーターとしての役割をフジプレアムグループが担っていきたいと考えています。

TOPICS: 1

**証券会社、証券アナリスト向け中間決算説明会を開催いたしました。**

【日時】平成19年12月17日(月) 13:00~14:00  
【場所】野村証券本社ビル6F

証券会社、証券アナリストの方々にお集まりいただき「平成20年3月期中間決算発表説明会」を開催いたしました。決算発表説明会では当社役員から平成20年3月期中間決算の概況をご報告した後、平成20年3月期通期の業績見通しをご説明いたしました。

TOPICS: 2

**第3四半期の決算発表を行いました。**

2月15日(金)、平成20年3月期第3四半期の決算発表を行いました。

TOPICS: 3

**関西ノムラ資産管理フェア2008に出展いたしました。**

【開催日】平成20年2月15日(金)~16日(土)  
【会場】京セラドーム大阪(大阪市西区)

個人投資家向けに、資産管理や投資に必要な、知識と情報の提供を目的とする「ノムラ資産管理フェア」(主催:野村証券)に出展いたしました。2日間で、当社ブースへは昨年に比べ2倍近い約3,000名の投資家の方々にお越しいただきました。今年で3回目となる出展でしたが、1人でも多くの方に、当社についてのご理解を深めていただくことと工夫を重ねたブースで奮闘しました。

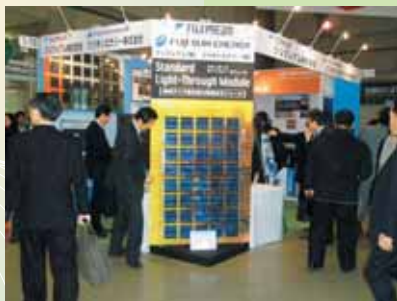


TOPICS: 4

**第1回国際太陽電池展に出展いたしました。**

【開催日】平成20年2月27日(水)~29日(金)  
【会場】東京ビッグサイト(東京都江東区)

太陽電池の製造・研究・開発に必要な、あらゆる装置、部品、材料、そして最新技術を紹介する「第1回国際太陽電池展」(主催:再生可能エネルギー協議会)に出展いたしました。3日間合計の来場者数は27,027名。フジプレミアム、フジサンエナジーはグループ一丸となって、建材一体型太陽電池モジュールを中心とする太陽電池事業をアピールしました。



フジプレミアムの本社のある兵庫県姫路市には、世界文化遺産に指定されている「姫路城」がそびえています。城下町姫路では茶道文化とともに、産業振興の一環として菓子作りが盛んに行われ「姫路菓子」として発展を遂げました。4月18日からは、姫路城周辺で日本最大級のお菓子の祭典「第25回全国菓子大博覧会・兵庫(姫路菓子博2008)」が開催され、全国各地のお菓子が、ここ姫路に集まります。今回の播磨探訪では、姫路の銘菓をご紹介します。お土産などに是非どうぞ!

フジプレミアムが選ぶ

播磨探訪:VOL.11「姫路のお菓子」を楽しむ

可憐な椿の花のような、とても上品な姫路銘菓です  
**玉椿(たまつばき)**



天保3(1832)年、第11代将軍徳川家斉の娘・喜代姫と第5代姫路藩主・酒井忠孝との婚礼を祝い、姫路藩家老の河合道臣が藩の御用菓子商である伊勢屋に命じてつくらせたものです。姫路城に咲く乙女椿という可憐な花に見立て、薄い紅色の求肥で黄味あんを包んだ、やわらかくとても上品な和菓子です。

浅野内匠頭が将軍に献上、播州赤穂名産の塩がきいています  
**塩味饅頭(しおまんじゅう)**



兵庫県赤穂市は塩の名産地。瀬戸内海の海水から作る塩を多めに入れたこしあんを、落雁(らくがん)のような生地で包みます。塩をたっぷり入れることで、あんの味がぐっと引き締まります。塩味饅頭は忠臣蔵で有名な播州赤穂藩主、浅野内匠頭(あさの たくみのかみ)が好んでいた和菓子で、参勤交代の時に、お土産として将軍に献上したことから、全国的に有名になったという話が残っています。

産業振興のため長崎まで修行に出向いて出来た駄菓子

**播州かりんとう**



かりんとうはポルトガル、オランダ船によって長崎に伝えられたものが全国に広まったもので、江戸かりんとう、播州かりんとうが有名です。当時姫路藩の財政再建に取り組んでいた家老の河合道臣は、産業振興のため長崎の出島まで藩士を派遣して、油菓子の製造技術の習得を命じたそうです。藩の取り組みのもとで各地から集まった良質の小麦粉・菜種油等を使い「姫路駄菓子」として広がりました。現在でも全国の約60%もの生産量を誇っています。かたこね製法で生地とうまみがあるのが特徴です。

このお菓子にも注目!

3

姫路城を大改築した城主の偉業を称えています  
**三左衛門(さんざえもん)**

第18代姫路藩主池田三左衛門輝政。三左衛門は現在に残る美しい姫路城を大改築した人物です。関ヶ原の戦いで功績をあげ入城し、1601年から8年の歳月をかけて大天守閣を持つ姫路城を築城しました。その偉業を偲び生まれた銘菓は、小麦粉、卵、砂糖などで作った皮で白あんを包み、池田家の家紋である揚羽蝶を型どっています。直径は13.5cmで、お城の紋文とほぼ同じ大きさに作られています。



第25回全国菓子大博覧会・兵庫  
**姫路菓子博2008**  
会期:2008.4.18~5.11 | 会場:姫路城周辺  
<http://www.kasihaku2008.jp/>

【姫路菓子博2008の概要】  
全国菓子大博覧会は、第1回目が1911(明治44)年に開催されてから、約100年の歴史を持つ博覧会。近畿地区では1954(昭和29)年の京都開催以来、54年ぶりとなります。  
【会場】  
姫路城(兵庫県姫路市本町68番地)周辺  
【期間】  
2008年4月18日(金)~5月11日(日)の24日間。  
【問い合わせ先】  
事務局079-225-5151・5161

# 業績報告

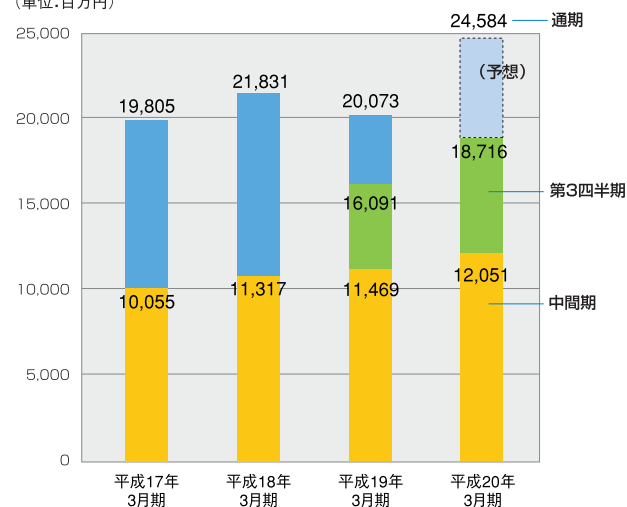
## 平成20年3月期第3四半期連結業績の概況

当第3四半期におけるわが国経済は、好調な企業収益を背景として景気は穏やかな回復基調にあります。米国でのサブプライムローン問題を契機とする世界的な金融不安や、先の見えない原資材高等、不安要素が残りました。このような状況の中、当社グループの主力事業であるフラットパネルディスプレイ関連事業につきましては、PDP（プラズマディスプレイパネル）市場の拡大に伴う価格低下の影響を受けながらも、生産体制の合理化及び自動化に伴う生産性向上により、受注数量は順調に増加し、業績は堅調に推移いたしました。この結果、当第3四半期の連結業績は、売上高18,716百万円(前年同期比16.3%増)、営業利益548百万円(同29.5%減)、経常利益577百万円(同32.8%減)、四半期純利益337百万円(同40.9%減)となりました。クリーン・エコエネルギー関連事業につきましては、材料の不足等による、新設PV(注1)工場の稼働の遅れにより、業績に影響いたしました。

(注) 1.PV(Photovoltaic)「光で発電する」の略称で、太陽光発電を意味しております。

## 売上高

(単位:百万円)



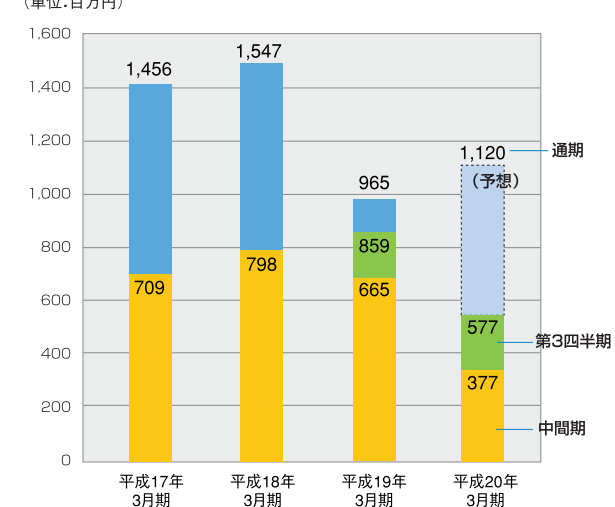
## 連結経営成績の進捗状況

(単位:百万円、未満切捨、%表示は対前年同四半期増減率)

	平成20年3月期第3四半期	平成19年3月期第3四半期	平成19年3月期(通期)
売上高	18,716 (16.3%)	16,091 (△1.6%)	20,073
営業利益	548 (△29.5%)	777 (△31.2%)	846
経常利益	577 (△32.8%)	859 (△26.1%)	965
四半期(当期)純利益	337 (△40.9%)	571 (△15.6%)	495
1株当たり四半期(当期)純利益(円)	11.55	19.38	16.82

## 経常利益

(単位:百万円)



# 会社情報

## 会社概要 (平成19年9月30日現在)

商号	フジプレアム株式会社 Fujipream Corporation (英)
本社所在地	兵庫県姫路市飾西38番地1
設立	昭和57年4月14日
代表者	代表取締役社長 松本實藏
資本金	2,000百万円
事業内容	PDP用光学フィルター関連事業 光学製品関連事業 太陽光発電関連事業 生産技術システム関連事業 他
従業員数	467名(連結・臨時雇用含む)
営業所及び工場	本社 姫路工場 播磨テクノポリス光都工場/研究所 東京オフィス
連結対象となる子会社	フジサンエナジー株式会社(設立 平成13年4月) 上海不二光学科技有限公司(設立 平成15年9月) フジプレアム商事株式会社(設立 平成18年6月) イマクル株式会社(設立 平成15年10月)
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行

## 取締役及び監査役 (平成20年3月1日現在)

代表取締役社長	松本 實藏
取締役副社長	松本 守雄
取締役副社長	田頭 未徳
代表取締役専務	牛尾 哲之
専務取締役	原 一雄
取締役	松本 春代
取締役	大川 拓志
取締役	池田 尊士
取締役	松本 倫長
取締役	渋谷 尚
取締役	山本 良徳
取締役	石見 健三
取締役	藤田 和也
取締役	片岡 智彦(社外)
常勤監査役	松本 毅
監査役	杉山 正幸(社外)
監査役	福田 雄二(社外)

# 株式情報

## 株式の分布状況 (平成19年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	105,000,000株
発行済株式の総数	29,786,400株
株主数	5,001名

## 大株主の状況 (平成19年9月30日現在)

松本實藏	15,130,700株
松本庄藏	1,854,000株
東レ株式会社	1,560,000株
旭硝子株式会社	936,000株
リンテック株式会社	936,000株
フジプレアム株式会社	556,600株
ジェイアンドエム株式会社	475,500株
松本倫長	408,300株
松本春代	360,000株
松本守雄	330,000株

## 株式分布状況 (平成19年9月30日現在)

